

進捗状況の概要 【1ページ以内】

本事業で計画している学生交流プログラムについて、平成28年度以降順調に海外の相手大学との協議を重ね、派遣・受入ともに当初計画していた交流プログラムを着実に実施している。平成28年度には情報コミュニケーション学部において、本事業取組として新たに「インドシナ半島経済回廊周遊プログラム」として複数国（タイ、ベトナム、カンボジア）での海外の相手大学との学生交流を実施するプログラムを開発・実施した。また平成29年度には、3部局の教員・学生及び交流先大学のうち8大学（カンボジア工科大学、ラオス国立大学、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学、ホーチミン市建築大学、チュラロンコン大学、シーナカリンウィロート大学、シンガポール国立大学）より教員・学生計27名をタイ・バンコクの明治大学アセアンセンター（以下本学アセアンセンター）に招聘し、各国が抱える都市化に伴う問題点や課題を共有し、解決へ向けた提言を行うことを目指す「共創FDワークショップ」、「CLMV学生会議」を実施した。同時に「PBL型体験学習」の試行プログラムとして、現地国際機関へのフィールドワークを実施するとともに、日本・CLMV諸国の教員・学生による活発な議論を通じて、「アジア型の将来都市構想」に向けた意識共有を行った。質保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組について、海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容（学修内容）の質保証の考え方等について意見交換を行った。平成29年度には、理工学部建築学科・理工学研究科では「2都市型ASEAN国際共同ワークショップ」期間中に海外の相手大学5大学（ホーチミン市建築大学、王立芸術大学/カンボジア、カンボジア工科大学、ラオス国立大学、チュラロンコン大学）から招聘した5名の教員による「共創FDワークショップ」の試行版を実施し、質保証や「持続可能な開発目標(SDGs)」等に係る議論を深め、目標達成へ向けて、平成27年に国連で採択されたSDGsを反映する形で7つの目標からなるアコードを取りまとめた。

外国人留学生のための環境整備について、大学全体の支援策としては、留学生と日本人がともに生活の場を共有する「学びの場」として、和泉キャンパス隣接地に200室規模の国際混住寮「明治大学グローバルヴィレッジ」を建設しており、平成31年3月からの学生受入開始に向けて環境整備を進めている。さらに、情報コミュニケーション学部のCLMV短期学生交流プログラム（受入プログラム）では、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学及びハノイ大学より留学生を受け入れ、平成28年度・富山県立山町のインターカレッジ・コンペティション大会で最優秀賞を獲得した提案事業「文化体験の町・立山」の実証実験を平成29年・30年度に町の施策として実施し、北日本新聞や富山新聞等の各種メディアで紹介された。本事業では外国人向け文化体験ツアー・プログラムにベトナムからの受入学生がモニターとして参加し、立山町の観光・文化情報について動画を作成した上でベトナム語及び英語で情報発信するためのウェブサイトを作成した。その際も、派遣学生が「サポーター」として受入学生のサポートを通じて交流を図った。また、全学部に開かれたSDGsから地球規模課題について英語で学ぶ講座「グローバル共通教養総論」の科目履修を要件としたハノイ外国語大学・貿易大学（ハノイ）との間でのセメスター派遣・受入プログラムで受入2名、派遣1名の実施をすることができた。

日本人学生派遣のための環境整備については、派遣期間中の危機管理にかかるトータルサポートサービス提供会社と本学が契約を結び、派遣先での緊急時の事故受付や医療・救援サービス等のサポートが受けられる体制を全学的に整え、安全にプログラムが実施できる環境の整備に努めている。

事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開及び成果の普及については、平成28年度には事業広報ウェブサイト及び広報資料（日本語・英語）を制作し、海外連携大学や関係機関への広報活動を強化している。ウェブサイトでは広報資料の公開や平成28・29年度に実施した交流プログラムの広報・実施報告に加え、平成29年11月に明治大学で開催した「明治大学アカデミックフェス」<http://www.meiji.ac.jp/gakuchou/maaf2017/>の様子も掲載した。本イベントでは、「Fly to the World」と題して報告セッションを設け、3部局が進めてきた各プログラム及び平成29年8月にバンコクで開催された「CLMV学生会議」の報告を3部局から計22名の学生が集い実施した。これらを通じて、事業取組の情報公開及び成果のさらなる普及を進めている。本事業の全体的な推進・管理体制としては、「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を定期的実施するとともに教職員間のメーリングリスト及び本学学習支援ポータルサイト「Oh-o! Meiji」を活用し、3部局間での情報共有を図り、各事業取組のプロジェクト進捗管理を行っている。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
35人	38人	6人	6人	121人	133人	80人	73人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

本学で平成29年11月に開催された、学問分野や領域を越えた共創的研究の促進と発信を目的とした「明治大学アカデミックフェス」において、【Fly to the World（世界展開力報告）】と題するセッションを実施した。このセッションでは、政治経済学部（以下「政経」という）、理工学部建築学科／理工学研究科建築・都市学専攻（以下「理工」）、情報コミュニケーション学部（以下「情コミ」）の3部局が異なる専門性と背景を持つ学問領域を交わらせながら進めてきた取組やプログラムに関する報告と、平成29年8月にタイ・バンコクにある本学アセアンセンターにおいて海外の相手大学8大学（カンボジア工科大学、ラオス国立大学、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学、ホーチミン市建築大学、チュラロンコン大学、シーナカリンウィロート大学、シンガポール国立大学）の学生19名及び本学学生59名が参加して開催された「CLMV学生会議」に関する報告を行った。学内外の研究者・学生が多く参加した当該セッションでは、プログラムに参加した学生が、実体験からの主体的な学びや研究報告のプレゼンテーションを行い、様々な学部の教員が質疑・コメントをすることで、異なる分野から建設的に意見交換をすることができた。なお、当該セッションにおける報告（プレゼンテーション）・コメント・意見交換・質疑応答等はすべて英語で行われた。本イベントを通じて活動報告を行うのと合わせて、プログラムの質保証に向けてリフレクション及び各プログラムの進捗状況を確認共有するとともに、各取組部局及び3部局合同プロジェクトのさらなる連携・発展の可能性を広げるためのピアレビューを行うことができ、次年度以降の会議を検討・改善する上で貴重な機会となった。

理工の「2都市型ASEAN国際共同ワークショップ」期間中には、海外の相手大学5大学（ホーチミン市建築大学、王立芸術大学／カンボジア、カンボジア工科大学、ラオス国立大学、チュラロンコン大学）から招聘した5名の教員による「共創FDワークショップ」を2回開催し、4年連続で開催する「2都市型ASEAN国際共同ワークショップ」の戦略や、各国での建築・都市学の教育について議論を深めた。平成27年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」を反映する形で、7つの目標からなるアコードを作成し、今回の成果として取りまとめた。また夏期の派遣プログラムについては、博士前期課程1年生対象の「2都市型ASEAN国際共同ワークショップ」、学部4年生対象の「チュラロンコン大学建築学部短期留学派遣プログラム」、学部2～3年生対象の「国際実習派遣プログラム」の3つをオーバーラップさせて実施し、プログラムの一部として上級生の成果発表を見学するように設定した。このようにロールモデルとしての先輩の活動及び自身が将来取組める可能性を明示するようにしてプログラムを実施した結果、高い教育効果を得ることができた。また、これらの取組が功を奏し、平成30年度の「国際実習派遣プログラム」には20名の定員に対して2倍超の42名の申込があった。

情コミのアセアン学生交流プログラム（選択科目「国際交流（タイ）」2単位）においては、日・タイ双方の社会や文化的背景を理解するために「ニュースで知る日本」「ニュースで知るタイ」をテーマにプレゼンテーションを実施した。学生自身が社会の課題について調べ・考えて、他国の学生の前で説明することで、自国社会への理解を深めることに繋がるとともに、海外の学生の異なる価値観を身近に感じる貴重な機会となった。また、派遣先国であるタイにおいて、本学学生が現地学生とともにテーマを決めて、現地で合同調査・検討を行い、研修の総まとめとして合同発表を行った。平成29年度には、様々なテーマを取り上げ、多様な背景や価値観をもつ人々との合同作業の経験を通じて、参加学生らは、両国学生の受け止め方や価値観の違いを柔軟に受け入れ、世界の人々と協働するためのコミュニケーション能力の向上が重要であることを学ぶことができた。さらに、CLMV短期学生交流プログラムの受入プログラムにおいては、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学及びハノイ大学より留学生を受け入れ、平成28年度・富山県立山町のコンペティション大会で最優秀賞を獲得した提案事業を平成29年・30年度に町の施策として実施し、北日本新聞や富山新聞等の各種メディアに紹介された。本事業では外国人向け文化体験ツアー・プログラムにベトナムからの受入学生がモニターとして参加し、立山町の観光・文化情報について動画を作成した上で、ベトナム語及び英語で情報発信するためのウェブサイトを作成した。加えて、「インドシナ半島経済回廊周遊プログラム」においては、タイ・シーナカリンウィロート大学人文学部英語学科と共同で実施した模擬国連について、国際連合アカデミック・ジャパンのホームページに掲載され広く広報された。<https://www.academicimpact.jp/meiji/topics/2017/02/28173445/>